

本龍寺 本堂建設事業 記念誌

平成30(2018)年12月5日 御本尊還座式



目 次

4	ご挨拶	本龍寺本堂建設委員会委員長 菅名昭二 本龍寺第26世住職 樋口祐慈
6	本龍寺縁起	
10	大感謝法要	
12	御本尊動座式	
14	起工式	
15	立柱式	
16	上棟式	
17	竣工式	
18	御本尊還座式	
20	落慶・御遠忌法要 一日目	
24	落慶・御遠忌法要 二日目	
26	稚児行列	
30	建設工事の様子	
40	ご挨拶	本堂建設委員会技術顧問 石川 博
46	建設委員会・造営部の活動報告	
47	建設委員会・財務部の活動報告	
48	建設委員会・法要部の活動報告	
49	建設委員会・広報委員会の活動報告	
50	新旧本堂比較	
52	建設事業に伴う会議等開催記録	
56	本堂建設事業 済財志納者御芳名	
60	ご挨拶	株式会社 魚津社寺工務店代表取締役 魚津忠弘
61	本堂備品寄贈者御芳名	
62	建設委員会・写真	
64	本龍寺本堂建設委員会	
65	本龍寺本堂建設委員会会計 収支報告	
66	編集後記	







本龍寺本堂建設委員会 委員長

答名昭一

に賛意を得るべく各方面への説明を行い、建設のご同意を得ました。同年10月には建設委員会が発足。委員になられた方達は、昼夜に渡り資金の確保にご尽力され、目途を付けて下さいました。この御努力は終生忘ることはありません。

世紀の和泉本龍寺の本堂造営にあたりまして、檀信徒方・町内の皆さまの理解によつて無事に完成を致しました。心から御礼申し上げます。

申すまでもなく、本龍寺は古くから念仏道場として、地域の皆さんに親しまれてきました。近くでは明治35年1月の大火灾により本堂が焼失しても直ちに再建され、昭和20年1月の三河大地震で倒壊しても3年後には仮本堂が建築されました。先人達の素早い対応に敬意を表するものです。

平成27年1月、老朽化が目立つ本堂の再建意向が提示され、発起人を中心

や供^く笥^げなどの必要備品も整えました。これらの資金は、物品寄贈として広くお願いしたところ、非常に多くの方々の賛同と協力を得て貰うこと出来ました。この場を借りまして、衷心より感謝申し上げます。

建築工事は、業界随一の魚津社寺工務店が競業設計により受注され、技術顧問であるMC三河設計の石川博氏とともに事業を推進し、近隣にはない本堂並びに本玄関が完成しました。過去の経緯から耐震・防火に重点を置き、また旧本堂の部材を用いて昔の面影が忍ばれる配慮もしております。

内陣修復は、京都の名門・若林佛具製作所が担当され、新本堂に相応しい出来栄えに仕上げて下さいました。

新本堂の参詣席は柱のない広い空間で、一度に250席並べられるよう特別注文の椅子を用意しました。内陣の打敷

本堂とともに育てていただきました



本龍寺第26世住職

樋口祐慈

この度、新しい本堂が立派に完成しましたこと、ご協力ご尽力賜りましたすべての皆さんに厚く御礼申し上げる次第です。

本龍寺は平安時代の末期、承安4年よりこの地にあって、地域の人々とともに歩んで参りました。近代では寺子屋、農繁期託児所、そして和泉町内会事務所も境内にありました。

昭和20年1月の三河大地震により明治期に建立された本堂が倒壊してしまいます。和泉町では死者88名、重傷者60名、住宅全壊率73・3%の大惨事でした。ところが「お寺の本堂だけは何

とか」と自分の家もままならぬ状況の中、倒れた本堂の部材を用いた仮御堂を村をあげて建てて下さいました。大きな材木は大八車で米津にあつた製材所まで一本一本運んで挽いてもらい、町内各組ごとに回り番で地突きをしたと聞きました。結局このお堂は、その後約70年間も念佛道場の役割を果たすことになります。

しかし、損壊した前本堂の部材を用いたこともあって建物の老朽化は如何ともしがたく、また、あくまで「仮の本堂」のため、現在の諸行事を実施するには手狭となつてしましました。

そこで、平成27年1月に本堂再建発起人会が立ち上がり、2月に再建意向書を発表。同年10月には各組より選出

建立が結実しました。

そして、新しい時代の門出として平成31年3月、本堂落慶奉告法要・宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌法要・蓮如上人五〇〇回御遠忌法要・稚児数約千人の庭儀が勤まり、本堂建設事業が成就されたのでした。

お寺は、これまでの歴史が証明してきたとおり、檀信徒全員の共有財産です。特に本堂は、皆さんに喜んで使っていただけてこそ価値があります。葬儀や法事の仏事会場としての莊厳さと、コンサートやイベント会場としての機能性とを兼ね備えた本堂です。気楽にご使用・お参りを頂き、新本堂を人の集う念佛の道場として、末永くお育て賜りたいと願っております。

された委員を中心に本堂建設委員会が発足し、平成28年1月に建設趣意書を配布。同年12月建設起工式が、平成30年12月御本尊還座式^{げんざしき}が勤まり、新本堂

本龍寺縁起

承安4（1174）年、近江国の樋口左衛門尉正則は、源空上人の従者として近江国から遠江国へ下る途次に岡崎に駐止した頃、「岡崎市源空寺寺伝より」、師の源空上人から別れて和泉村集落の西方（現在の南本郷で丈山小学）

校の西付近）入江対岸の高台に念佛道場を開いた。

正広は応仁2（1468）年、本願寺8世蓮如上人が、その弟子如光の懇請を容れて三河国西端村に来錫した折、

蓮如上人の教化をうけて淨土真宗に帰依した。正広はこの時、蓮如上人から西蔵坊釋慶聞の法名を賜り、淨土真宗の念佛道場が誕生した。

弘治2（1556）年夏、落雷の災厄で道場が焼失したのを機に、新たに西北方の現在地（中本郷）に道場を移転した。すると庶民のこの近くへ移転してくる者が續々と相次いで、村の集落の地域・形態が変わつてくる導火線を醸造するに至った。



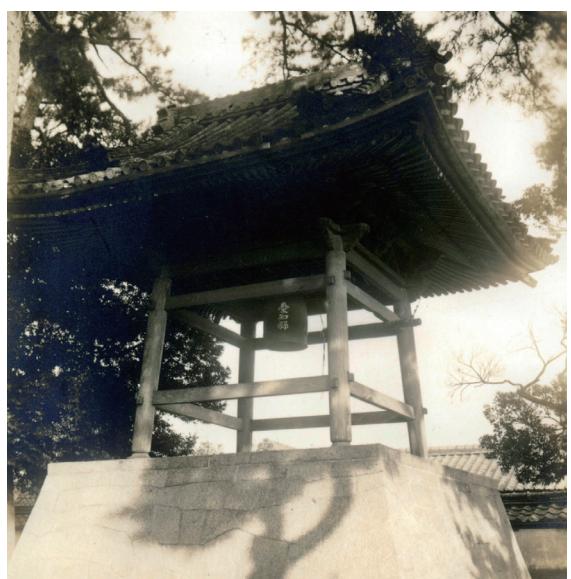
約400年前の地図

慶長11（1606）年、本龍寺中興開山といわれる二休が尾州野夫村円光寺より33歳の時に道場主として養子してきた。二休は数年前から本願寺に出仕しており、彼が26歳の慶長5（1600）年夏に、徳川家康が会津に上杉景勝を討伐のため下野国小山まで赴いた時、本願寺教如上人はこれを陣中に慰問するため京都から小山へ旅行をしたが、この時二休も選ばれて往

復とも隨行した。帰途岐阜まで来たところ、ちょうど石田三成が家康軍の帰還するのを岐阜へ関ヶ原の線で撃破せんと兵力の配備中であったのに遭遇し、要所毎に抵抗を受けた。幸い二休は三成軍の家臣の出方弥次右衛門・同藤藏の両名と縁故の間柄にあつたので、この両名に先導させて無事に戦線



前々本堂（明治37年～昭和20年）



前鐘楼（延亨1年～昭和34年）

をくぐり抜けることができ、大津の四十九院〔今の三井寺〕まで無事に教如上人を帰還せしむることを得た。この二休のはたらきに対し教如上人は非常に感謝され、その功績を賞して秘蔵の阿弥陀如来立像〔聖徳太子ご遺作と伝えられる〕を賜つた。

二休はこの尊像をはるばる背負つて和泉村の道場へ安置し、その後も代々崇敬・礼拝した。

二休は念佛道場を改組して寺院化し本山から正式に寺号下附をうけ、本堂の新築も造成されている。本堂の規模

は入母屋流造向拝付六間四面・総檼材造で、当時まだこの近辺で寺院建築らしきものは造営せられていない時だから、その評判高く近隣郷邑の羨望的であつたと伝えられている。しかし、明治35〔1902〕年に大火災に遭い、聖徳太子ご自作の阿弥陀如来立像とともに惜しくも鳥有に帰した。

元禄12〔1699〕年、棟行四間・梁間一間半・入母屋造二階建・樓閣式



梵鐘回収

の茶所を新築。階下の土間には大茶釜があり人々が集う大集会場であつたが、大正7年（1918年）1月の降雪の夜、不慮の火災で鳥有に帰した。

梵鐘と鐘樓は延享元年（1744年）



前本堂（昭和23年～平成28年）

年に建造せられた。梵鐘は昭和17年（1942年）太平洋戦争中の金属回収の対象となり、鐘樓は昭和34年（1959年）伊勢湾台風で倒壊した。

山門は文化5年（1808年）に都筑弥厚翁が金三〇〇両を投じて寄進された。単層切妻造四脚門・総檜材造の華麗な建築で、殊に門扉は玉杺檜に総彫塑を施した豪壮な様式で、当時の東海道下で唯一を誇るほどの出来だと称されていたが、明治3年（1870年）9月の暴風で倒壊した。現在、境内の東屋東に当時の山門基礎石が遺されている。

明治35年1月の大火灾で本堂を焼失。「小川橋の向こう岸から火柱が見えた」という証言が残っている。その後、九間四面・総檜造の本堂を再建。しかし昭和20年（1945年）1月の三河大震災で倒壊し、昭和23年（1948年）にその材料を使って村中の人々が手作りで入母屋妻（つまむすび）入間口七

間の仮御堂を構築した。

昭和49年（1974年）に現在の鐘楼と梵鐘を、昭和59年（1984年）に同朋会館と水屋を、平成4年（1992年）に表壇をそれぞれ再築している。

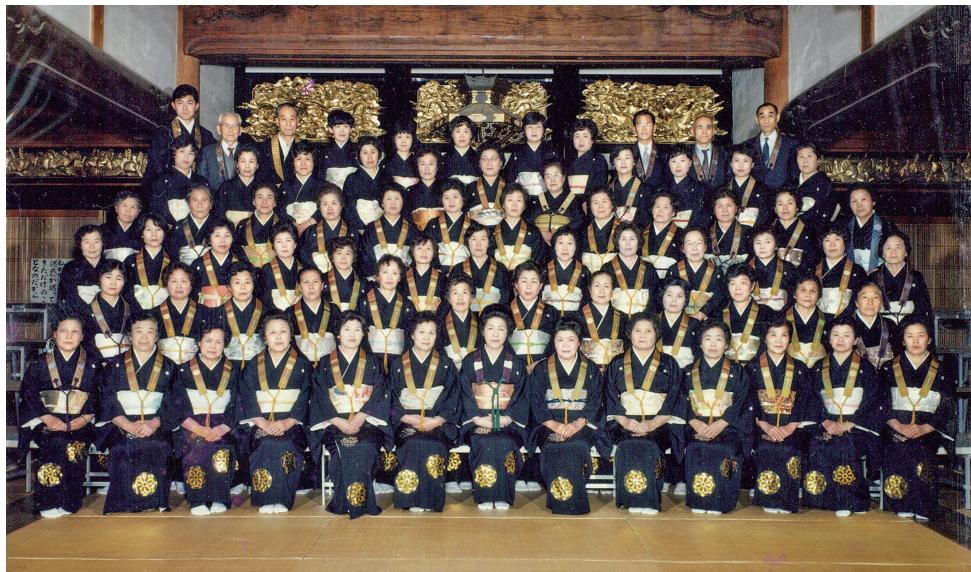
平成5年（1993年）2月、樋口文昌前住職〔第25世〕逝去。会葬者約1100名の葬儀が勤まる。



現在の鐘楼（昭和49年～）

平成27（2015）年10月に本堂建設委員会発足、平成30（2018）年12月に本堂竣工式・御本尊還座式が勤まり、入母屋撞木屋根流れ向拝付木造本堂が完成する。

平成31年3月に本玄関完成。唐破風からは



前御遠忌のしんらん音頭（昭和63年3月）

形状は、秀吉が建てた聚楽第の一部ともいわれる西本願寺の国宝飛雲閣の曲線ラインが参考せられている。

平成31（2019）年3月に本堂落慶奉告法要・宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌法要・蓮如上人五〇〇回御遠忌法要が勤まる。稚児行列に約一〇〇〇名の稚児が集う。



新しく出来た本玄関



前住職の葬儀（平成5年2月）

大感謝法要(平成28年7月16日)



式典開始直前本堂

すべての事業が開始されることを御本尊にご奉告申し上げる感謝の法要です。



式典参加の人々



司会：早川副委員長 開会の言葉：杉浦法要部長



法要の趣旨を御本尊に奉告する表白



全員の焼香



沓名建設委員長挨拶

全員で正信偈



御本尊動座式(平成28年9月24日)



動座式開式



金障子全閉

読経と焼香



みぬぐいしき
御本尊 お身拭式

いし
御本尊 ご移涉



御本尊 おんどうさ
御動座



仮本堂である同朋会館へ移動



仮本堂入仏式



沓名建設委員長挨拶



仮本堂に安置された御本尊

全員で恩徳讃

起工式(平成28年12月8日)



読経



式典開始



正信偈



焼香



地鎮式



参加者全員でお淨め



ほり初めの儀（クワ）



うがぞ 穿ち初めの儀（スキ）



かぞ 割り初めの儀（カマ）



立柱式(平成29年12月20日)



読経



25tクレーンにて建材の積み上げ

新本堂に向かって焼香

上棟式(平成30年2月6日)



読経



祭壇



焼香



ひきつな
曳綱の儀



つちうち
槌打の儀





参加者全員の記念写真



竣工式(平成30年12月1日)



式典参加の建設委員・顧問



読経と焼香

げんざ 御本尊還座式(平成30年12月5日)



仮本堂で読経



式典の予告鐘



焼香



還座のお練り



新本堂へ



御本尊入内

新本堂



御本尊入仏法要



落慶・御遠忌法要(平成31年3月30日～3月31日)：一日目



さんきんほっちゅう
参勤法中は親戚・懇親関係



法要前



来賓として町内役職者が参拝



げじん
外陣は三河別院列座
れつざ



建設委員長挨拶



きりゅうさんげ
起立散華



ひょうひゃく
本堂落慶法要表白



慶讚行事司会



雅楽



式支配の堀田本宗寺住職



三河万歳（丈山小学校）





しゅくまい
祝舞（西三河雅楽研究会）



大谷大学男声合唱団 OB



御遠忌スペシャル本龍寺合唱団



蓮如上人500回御遠忌法要



ぎょうどうさんげ
行道散華

きょうどうし
副住職経導師



しんらん音頭



本龍寺女性陣約100名が集結

落慶・御遠忌法要(平成31年3月30日～3月31日)：二日目



そほっちゅうさんきん
15組法中が参勤



二日目



宗祖親鸞聖人750回御遠忌第一日中法要





京都・東本願寺 鍵役 信明院殿 ご来寺



稚児行列の最後をお歩き頂きました



信明院殿ご挨拶

宗祖親鸞聖人750回御遠忌第二日中法要



住職 謝辞



沓名建設委員長挨拶

稚児行列(平成31年3月31日)



稚児行列出発（丈山小学校）



稚児約1,000人がご家族とともに歩きました







新本堂で全員が焼香



らんおん
鸞恩くん・あかほんくんと記念写真



衣装の着替え＆返却



どうしゅう
最後尾は東本願寺党衆様と東本願寺鍵役様、本龍寺住職が勤めました
かぎやく



23名の役稚児



だいぎょうどうさんげ
大行道散華

建設工事の様子



平成28年10月1日 解体工事のための参道養生



平成28年9月26日 前本堂の仏具搬出



平成28年10月10日 前本堂の部材分別



平成28年10月7日 前本堂の解体工事



平成28年12月28日 新本堂建設予定地



平成28年12月7日 参道より30cm低く整地



平成29年3月1日 柱状地盤改良工事開始



平成28年12月28日 解体整地作業完了



平成29年5月16日 地盤工事開始



平成29年3月22日 連壁になったコンクリート柱
れんぺき



平成29年5月25日 修復を終えご帰寺の御本尊



平成29年5月16日 本堂外周の転圧
てんあつ



平成29年7月11日 基礎工事開始



平成29年7月7日 地盤工事完了



平成29年7月21日 基礎ベースコンクリート打設



平成29年7月16日 鉄筋の配筋完了



平成29年8月31日 型枠・アンカーボルト等設置完了



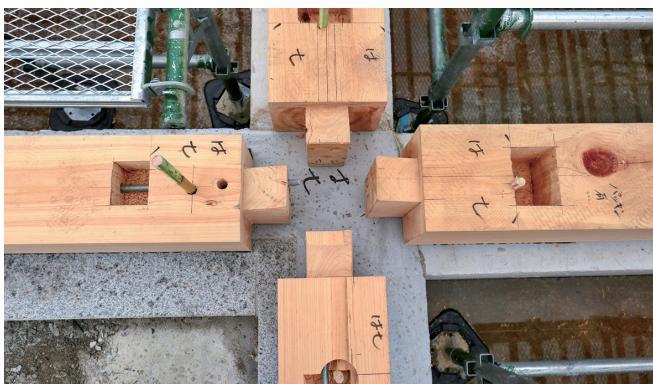
平成29年7月30日 基礎梁型枠工事



平成29年9月11日 基礎工事完了 総重量約600t



平成29年9月1日 基礎梁と浜縁コンクリート打設



平成29年11月29日 檜丸柱の立つ土台



平成29年11月27日 土台設置工事



平成29年12月18日 檜材角柱と丸柱



平成29年12月18日 立柱開始



平成30年1月12日 大屋根のトラス小屋組



平成30年1月10日 大屋根四隅の化粧隅木すみき



平成30年1月18日 Tの字をした撞木屋根しゆもく



平成30年1月16日 大屋根には合掌トラス6枚設置



平成30年2月22日 内陣屋根から見た大屋根ないじん



平成30年1月31日 下屋の屋根仕舞いげや



平成30年3月2日 下屋の瓦葺き工事ふ



平成30年2月28日 野垂木と野地板工事のだるき のじいた



平成30年3月12日 大屋根に桔木6本を設置
はねぎ



平成30年3月10日 向拝工事
ごはい



平成30年3月26日 破風板の設置
はふいた



平成30年3月23日 大屋根正面の屋根仕舞い



平成30年4月3日 大屋根のルーフィング貼り工事



平成30年3月28日 内陣屋根の内部
ないじん



平成30年4月12日 内陣屋根の瓦葺き工事
ふ



平成30年4月9日 瓦上げ作業



平成30年4月30日 葺き師さんの記念撮影



平成30年4月19日 耐力壁は90ミリ角の面格子



平成30年6月8日 大屋根の瓦葺き工事



平成30年4月30日 撃木屋根の接合部



平成30年7月2日 内陣屋根完成



平成30年6月16日 下屋から見た屋根全体



平成30年7月5日 大間と土間の大引き設置



平成30年7月2日 8畳シーリングライト50個設置



平成30年7月23日 大間と土間の床下は約1m



平成30年7月22日 繊維強化セメント製珪酸板



平成30年7月30日 瓦葺き工事完了



平成30年7月23日 大屋根から見た内陣屋根



平成30年7月31日 職人さん方とバーベキュー



平成30年7月30日 余間の格子天井



平成30年8月10日 留蓋瓦設置



平成30年8月2日 棟札の設置



平成30年8月27日 内陣の折上小組格天井



平成30年8月19日 内陣から見た大間



平成30年9月9日 大間から見た内陣と外陣



平成30年8月29日 南破風



平成30年10月9日 上吊り折障子式二重ガラスサッシ



平成30年9月24日 外陣框に前・前々本堂の大虹梁



平成30年11月15日 床板は24mm厚構造用合板



平成30年10月29日 余間床下は約1.5mの空間



平成30年11月20日 浜縁コンクリート打設



平成30年11月15日 内陣金箔クロス完成



平成30年11月23日 莊嚴と仏具一式搬入



平成30年11月20日 南石段と華部屋



平成30年12月11日 本玄関の屋根工事



平成30年12月11日 浜縁の欄干とスノコ設置



平成31年2月24日 本玄関完成



平成30年12月20日 本玄関の唐破風屋根



平成31年4月23日 避雷設備設置



平成31年2月26日 幅2間の渡り廊下完成



令和元年6月4日 向拝階段に手すり設置



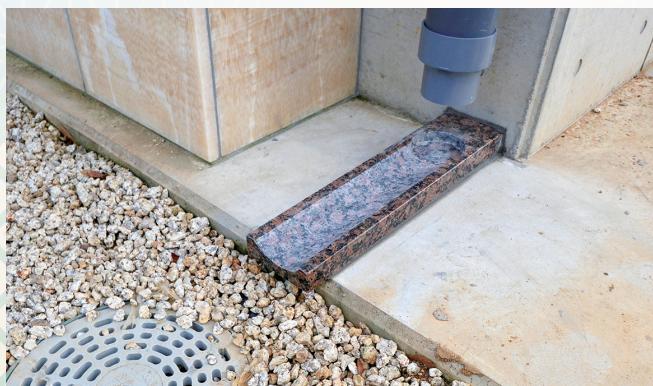
平成31年4月23日 受雷帯は総延長90m



令和元年6月19日 向拝前天水鉢を新設



令和元年6月19日 約240年前の天水鉢を再設置



令和元年8月29日 バルチックブラウン縦樋設置



令和元年6月21日 本堂建設記念碑設置

報恩志るべからず



本堂建設委員会 技術顧問
石川 博

明治13年、今から139年前に私のご先祖様は、明治用水開通に伴い新田開拓のために和泉村を出ました。その後135年経つて、本堂建設委員会の技術顧問という立場で、再びこの和泉に籍を置かせて頂きました。大工の小僧として16歳でこの道に入つて約半世紀、少しでもお役に立てればと精一杯努めさせて頂きました。

現在の本業である設計業の見地から、魚津社寺工務店さんに色々な提案・相談を致しました。それは基礎構造、屋根形状、防火システム、照明、建材や建具など多岐に渡り、必ず建設委員会にて全員の賛同を賜りながら進めました。

魚津の大工さん方も一丸となつて、暑い時も寒い時もよく頑張つて下さいました。沓名委員長をはじめ、各部長さん方々も毎日のように足を運んで下さいました。そして決してお世辞ではなく、まさに空前絶後と言つても過言でない立派な本堂が出来上りました。金山現場主任は「毎日現場に来るのが楽しみでした」と最後の会議でお礼の挨拶をされたほどです。

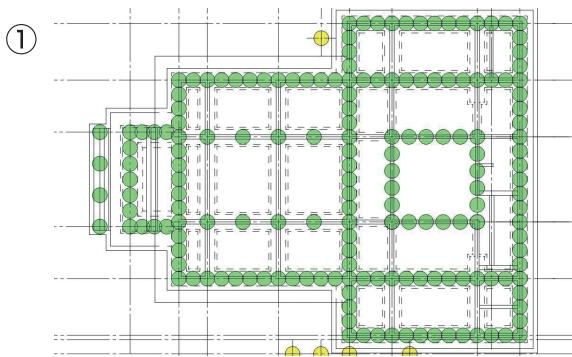
孔子は「70にして矩を超えず」と言い、74歳で亡くなりました。もし、もう少し長生きされたならきっと「80にして報恩これを忘るべからず」と言われたと思うのです。ご先祖様のお陰で今の自分がいるわけです。そのゆかりの地で、心の依り処となる念佛道場建設に携わることが出来ましたこと、厚く御礼申し上げます。ただ少し力が入り過ぎてしまい、皆さまを度々ハラハラさせてしましましたことは、この場を借りてお詫び申し上げます。

こんなに大勢の方々が集まるお寺も今日では少くなりました。結びに、本龍寺様のご発展と檀信徒の方々のご健勝を心よりお祈り申し上げ、ご挨拶と致します。

新本堂の技術解説 《地震対策》



①柱状改良＝掘削機先端の攪拌翼でセメント系固化材を地盤に注入しながら土壤と混合攪拌し、化学的に固化させたセメント柱を地中に造成。強度はサンプル試験で 6.1N/mm^2 。これは角砂糖大で60kg以上に耐える硬さ。



地中コンクリート柱は、直径1.0m×深さ8.0m×181本。1本1.7トン。直径の20%をクロスさせ連壁とし、土中に複数の「箱」を形成。地震時に土壤〔主に砂泥〕を抱え込んで安定させ、液状化を防止。



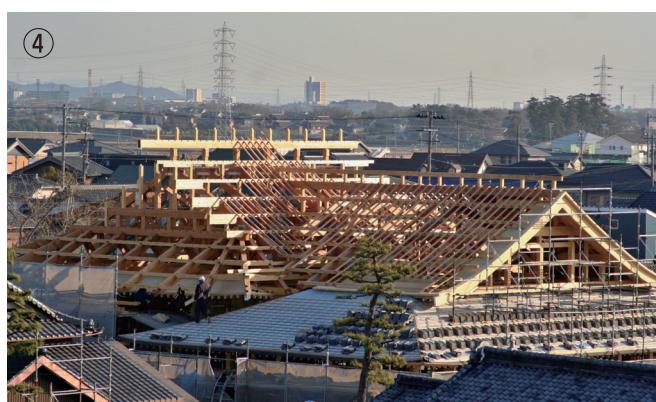
柱状改良の上に150mm厚の碎石コンクリートを転圧して、その上に防湿フィルムと50mm厚の捨てコン施工が終了したところ。ここまででは土壤工事であり、本堂の建築構造物ではありません。



②基礎=配筋ピッチ200mm二重配筋、基礎ベース厚250mm。ただし外周は基礎厚400mm。基礎梁高850mm。総重量約600tの完全一体化した基礎構造体。大きなビルが建つほどの耐力があり、免震機能も有します。



③小屋組=建物中央に柱のない広い空間を確保し、かつ強い強度と軽量化に優れた合掌トラスを採用。



④屋根=上から見るとT字型をした撞木屋根。
しゆもく この屋根で高さを抑えた縦長の本堂を実現。





⑤小屋組＝屋根の内部は合掌構造。すべての部材はボルトで固定。右側は防火壁。



⑥耐力壁＝すべての壁は、斜交いより耐震性に優れた90mm角面格子に12mm厚構造用合板を両面張り。

《防火対策》



⑧室内壁＝堂内すべての壁に不燃石膏ボード。

⑦天井＝化粧不燃石膏吸音ボード。



⑨防火壁＝本堂への渡り廊下、同朋会館と奥座敷の本堂側全サッシに電動防火シャッター設置。



⑪

⑪浜縁＝石材＋鉄筋コンクリート製。



⑩

⑩外壁＝14mm厚繊維強化セメント珪酸カルシウム板設置。

《落雷対策》



⑫

⑫避雷帯＝屋根の棟部4ヶ所に幅25mm×厚さ3mm×総延長90mの銅製受雷帯を設置。

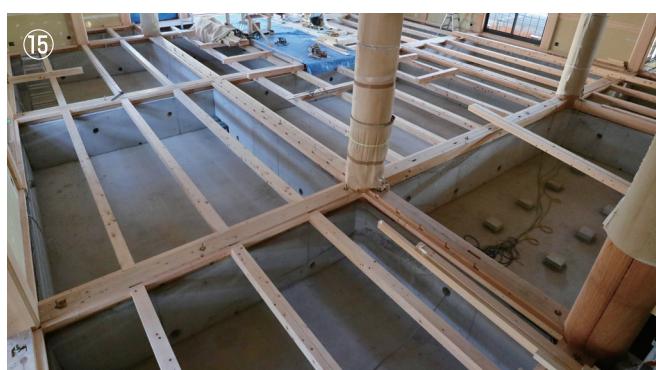


⑬

⑬アース＝接地抵抗を低くするため直径14mm長さ10mと15mの銅製アース棒を2本ずつ対角線に地中へ打ち込み、土壤との接触面積を多くするため90cm四方の銅製接地板を埋設。



《換気対策》



⑮

⑮床下空間＝大間には約1mの床下空気層を設定。



⑯

⑯通気孔＝すべての基礎梁に105ヶ所のベントを設定。



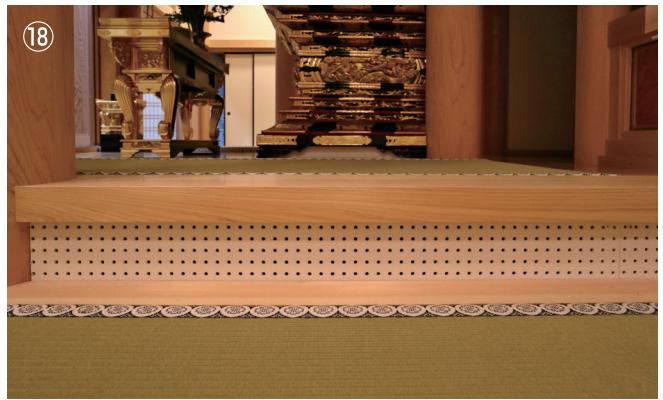
⑯大型サークュレーター=堂内天井に4基設定。



⑯床下=余間下は高さ約1.5mの空間。



⑯床下換気=夏は冷気、冬は暖気になる床下空気を、堂内に循環させる通風孔を各所に設置。



<本玄関>



⑰前本堂材=柱は向拝柱、虹梁は脇虹梁を再利用。



⑰原寸図=唐破風屋根のライン決め風景。



⑰式台=前本堂の脇虹梁材<黒松>を加工して使用。



⑰沓脱石=上面と前面が割肌の御影石。上は裏面の矢穴。

<建具・照明>



㉓折戸・欄間=笠杺両面浮造樹齢千年杉共木無垢板製。欄間は折戸素材を神代杉象嵌縁取仕上げ。
外陣框=前々本堂・前本堂で使用された大虹梁<奥三河産櫻材>。



㉔正面戸=上吊折障子式フルオーブン二重ガラスサッシ。



㉕北落間板戸=4尺×7尺秋田杉無垢板製。



㉖内陣常夜灯=御本尊はLED特殊ビーム、諸尊前はLED間接照明。

建設委員会・造営部の活動報告



平成29年8月10日 志納掲示板の設置
<境内>



平成29年1月25日 材木検査の企画実施
<(株)カジウラ西部営業所・弥富市>



平成30年9月22日 建設現場見学会の企画実施
<新本堂内>



平成29年8月18日 工場見学の企画実施
<(株)魚津社寺工務店・名古屋市>

本堂の建築は和泉神社本殿を造られた「(株)魚津社寺工務店」に決定し、材木選定時には資材置場に、建設途中には加工工場に建設委員全員で見学に行く等、連携を密にして進め、平成30年12月立派に完成了しました。また、志納者芳名板は約900枚全て杉浦由美子様に書いて頂きました。

解体作業以来、大型車の通行など町内皆さまには格別のご協力を頂きました。お陰さまで事故も無く、完成了することを心より感謝し、お礼申し上げます。

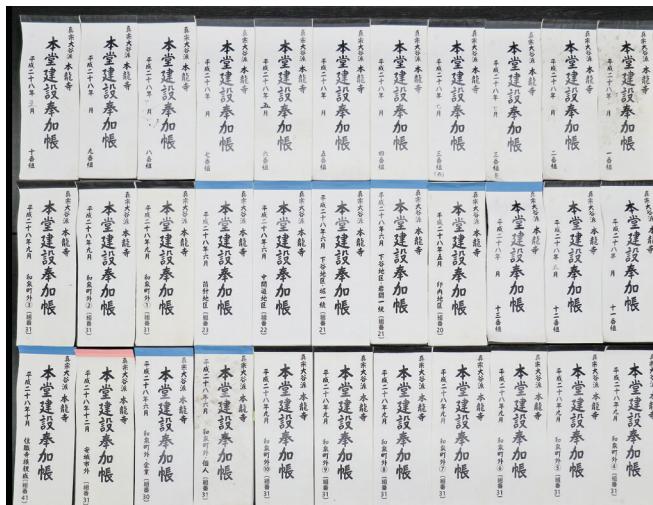
平成27年10月、建設委員会の組織が決定し、造営部会が発足しました。当初、地質調査や先進事例の見学会を計画し、幡豆や碧南等のお寺の見学調査に行きました。また、平成28年3月には建設内容説明会を3日間行い、約300名の出席を頂きました。解体工事は町内の「(有)立希」に依頼し、新本堂に使える木材を傷つけないよう作業を進めて頂き、古材は新本堂と玄関に生かされました。同様に、明治時代の火災に耐えた天水鉢は守神として再び設置し、落ち着いた風情を見せてています。

本堂造営を振りみて
造営部長 神谷達朗

建設委員会・財務部の活動報告



平成29年3月2日 建設内容説明会の企画実施
<前本堂>



全奉加帳の表紙

結果がどうなるのか不安で一杯でしたが、目標額に日途がつきそうになつた時は、言い表しよがない安堵の気持ちになりました。これもご奉加下さいました多くの方の熱いご支援と、建設委員の皆さんのかつ労のお陰と深く感謝いたします。

町内の活動を進める一方、財務部では町外募財の準備を進めました。安城市内は元より、近隣市の檀家さんにも建設委員が始めました。

真宗大谷派 本龍寺 本堂建設委員会だより
第2号 2016年5月
安城市和泉町中本郷41
TEL.0566-92-0505
和泉の本龍寺 検索

ご懇志ご進納についてのお願い

「本堂建設委員会だより」第1号でもお願い致しましたが、本堂建設基金について具体的にお願いする運びとなりました。

皆様方からの大切なお志の取り扱いに、間違いや手違いがあつてはなりませんので、大変失礼ではありますが、下記の要領にてお願い致します。

1. 奉加帳へのご記帳

平成28年5月中旬より、組別建設委員が各家庭にお伺いしますので、奉加帳へのご記帳をお願いします。

- ①「金額」・「ご芳名」のご記入をお願いします。
 - ・記入は自筆でお願い致します。
 - ・記入用のサインペンを用意します。
- ②「お振込み先」は、ご希望の金融機関に○を付けて下さい。
- ③「お振込み回数」は、ご希望の回数に○を付けて下さい。



平成28年5月10日 ご懇志進納の依頼
<建設委員会だより 第2号にて>



平成29年7月25日 第3回芳名板の点検
<同朋会館>

募財業務の基盤作り

財務部長 畑名忠孝

建設委員会が発足し、財務部会を担当する事になった時は正に晴天の霹靂でした。

建設委員が一軒々々回って、建設資金を寄附して頂くための基盤作りが最初の仕事でした。奉加帳の様式・書式から検討を始め、金融機関との交渉や相談と慣れない事の連続でした。

また、建設委員にとって何より重大で困難な建設資金集めに際しての七つ道具の検討に再三の会合を重ねました。そして建設委員全員による具体的な勉強会を行い、平成28年5月、和泉町内の訪問募財活動を開始しました。

結果がどうなるのか不安で一杯でしたが、目標額に日途がつきそうになつた時は、言い表しよがない安堵の気持ちになりました。これもご奉加下さいました多くの方の熱いご支援と、建設委員の皆さんのかつ労のお陰と深く感謝いたします。

建設委員会・法要部の活動報告



平成30年10月20日 稚児行列の申込み受付
<庫裏玄関>



平成30年5月5日 稚児行列のコース下見
<和泉町内>



平成31年3月27日 稚児記念品の袋詰め作業
<新本堂>



平成31年3月27日 稚児行列用の看板製作作業
<同朋会館>

建設委員会の組織が決まり、法要部は稚児行列の実施を中心に取り組むことになりました。が、具体的な内容が何も分からず、とにかく他のお寺の稚児行列を幾つか見学させて頂きました。全体像を作り上げ、丈山小学校の体育館や運動場の借用許可を得て、安全で賑やかな行事にするための方策を連日練りました。

小学校からお寺までの行列コースは何度も検討し歩いて確かめ、最後は委員全員で実際に歩きました。警察署から道路使用許可を頂くのも初めてで緊張したものです。募集案内ができる、平成30年10～11月の土・日曜の申込み受付は、建設委員全員が交代で行いました。最終的に申込みは役稚児も合わせて約千人になりました。

中学・高校生を含め約200名のボランティア、本龍寺関係全役員、建設委員の力が結集されました。東本願寺鍵役様も行列に華を添えて頂き、一人の怪我も事故も無く、無事に終了することが出来ました。ご協力とお支えに改めて感謝し、ここに厚くお礼申し上げます。

仏の道を稚児千人

法要部長 杉浦輝幸

建設委員会・広報委員会の活動報告

号	発行年月	主な内容
第11号	平成28年4月	建設委員長・住職あいさつ、建設委員の紹介
第10号	平成28年5月	ご懇意ご進納についてのお願い
第9号	平成28年6月	主な会議等の経過報告・工事等の工程表
第8号	平成28年8月	本堂建設事業事始め奉告式
第7号	平成28年10月	本堂感謝法要・御本尊動座式
第6号	平成29年1月	本堂建設起工式
第5号	平成29年10月	本堂建設上棟式及び本堂内覧会のお知らせ
第4号	平成30年2月	本堂建設状況(屋根工事・向拝工事・内部工事)
第3号	平成30年7月	第2回建設現場内覧会のお知らせ
第2号	平成30年9月	御本尊還座式
第1号	平成31年1月	

「本堂建設委員会だより」の発行

平成27〈2015〉年10月に本堂建設委員会が発足し、事業がスタートしました。そして、その半年後の翌年4月に建設事業の広報誌として「本堂建設委員会だより」第1号を発行致しました。以来、約3年間に渡って建設の進捗状況、式典等の案内や報告を全戸配付でお知らせしてきました。その概要は次のとおりです。

広報委員長 脇名雅昭



新旧日本堂比較

新本堂<平成31年～>



<建築面積 522.357m²>

日本堂<昭和23年～平成28年>



<建築面積 234.86m²>

正面



南側面



南上空



<幅192cmの畳92畳>

だいま
大間 = 参詣席



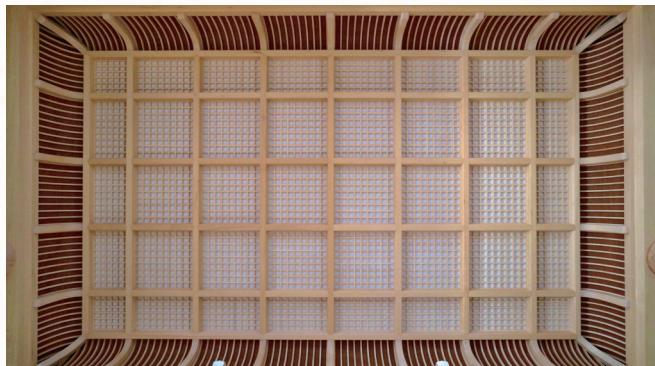
<幅165cmの畳48畳>



<全椅子席 最大250脚>



だいま
大間 = 参詣席



おりあげこぐみごうてんじょう
<折上小組格天井>



おりあげごうてんじょう
<折上格天井>



<最初の報恩講 平成30年12月> 音楽法要 <最後の報恩講 平成27年12月>



<最初の元旦 平成31年>

しゅうしょうえ
新年修正会



<最後の元旦 平成28年>

建設事業に伴う会議等開催記録

内 容											年 月 日 種別
28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	
4	3	2	1	11	10	9	7	3	2	1	
12 2 16 2 27 24 17	12 21 14	13 30	10 5 24	1 27 4	世話方同行集会	組長会	第一回委員会	第二回委員会	第三回委員会	第四回委員会	
第9回委員会	業者説明会	第5回委員会									
第8回委員会	檀信徒説明会	第6回委員会									
第7回委員会	檀信徒説明会										

本堂再建について、寺役会の了解のもと全員の賛同で発議
本堂再建について発起人代表・住職より提案・依頼、承認
町内各組総会
世話方同行集会
発起人・責任会
組長会
第一回委員会
世話方同行集会
本堂再建趣意説明、本堂建設事業に協力依頼
本堂再建事業について経過説明、各組より建設委員の選出依頼
本堂再建事業について経過説明、各組より建設委員の選出依頼
建設委員会発足、発起人代表・住職・寺役代表挨拶、経過報告
建設委員会委員長に齊名昭一氏を選任、規約・組織概要等決定
役員選出（副委員長・会計・監査・部長）、3部会の構成
役員選出（顧問・技術顧問）、技術顧問石川博氏より、この地域は三河地震の被災地、本堂も倒壊、本地域の地盤は悪い、地質調査は早くやった方が良いと提案
予算・希望明示の上、複数社でのプレゼンテーション方式
新本堂の規模・間取り、建設費概要について検討、本堂建設趣意書の内容検討
設趣意書の内容検討
本堂建設趣意書について、内容・配布方法確認、本堂建設事業・内容等
檀信徒説明会の内容・方法検討
ボーリング調査結果、本堂建設内容説明会の内容・方法・案内等検討、建設業者説明会（現場説明会）について、落慶法要時に稚児行列を実施する事決定
建設業者説明会（現場説明会、3社参加）
第1回建設内容説明会（1・2・3・11番組）
第2回建設内容説明会（4・5・6・10番組・町外）
第3回建設内容説明会（7・8・9・12・13番組・町外）
本堂解体業者を「有立希」に決定、「建設委員会だより」発行及び編集委員決定、各戸への浄財寄進依頼方法検討
本堂建設設計説明会（プレゼンテーション）、3社参加、各社とも冒頭に委員長挨拶、その後30分提案、質疑
本堂建設設計説明会を受け、本堂建設業者を「株魚津社寺工務店」に決定。

9	8	7	6	5	21	20	18
8 24 3 25	16 8 26	25 18 4	3 29	25 11	27		
第18回委員会	第16回委員会	第15回委員会	檀信徒説明会	檀信徒説明会	檀信徒説明会	第12回委員会	第11回委員会
第17回委員会	会館感謝法要	大感謝法要					

組織・役員・経過等説明、今後予定・防災等意見交換
平成27年度決算報告、浄財寄進依頼業務について検討
役員会に業者が参加した検討会を「企画委員会」と呼称、魚津社寺工務店より、今後の進め具合について概要説明、基礎を頑丈に、屋根に土はのせない、丈夫な木造、防火・防災に重点
町内募財業務について具体的な方法説明・確認、内陣莊嚴等業者を「株若林佛具製作所」に決定、「建設委員会だより」第1号発行
町内募財訪問開始に向けて各種確認、明日より開始、「建設委員会だより」第2号発行
町内募財業務を実施した様子報告・検討、町外檀家説明会計画検討
会計画検討
桜井・印内地区檀家説明会（正副委員長・住職・坊守・他）、印内公民館で実施（建設計画概要、募財計画等）（40軒）
中開道公民館で実施（建設計画概要、募財計画等）（6軒）
町内募財業務中間報告（各組の様子と組別集計表）、境内全額・本堂の位置と計画配置図検討
桜井、中開道地区檀家説明会（正副委員長・住職・坊守・他）、中開道公民館で実施（建設計画概要、募財計画等）（40軒）
下谷公民館で実施（建設計画概要、募財計画等）（13軒）
「建設委員会だより」第3号発行（本龍寺広報誌「聞」と合併号で）
矢作・筒針地区檀家説明会（正副委員長・住職・坊守・他）、梅本孝夫氏宅で実施（建設計画概要、募財計画等）（7軒）
町内募財業務進捗状況・町外説明会実施状況報告、大感謝法要実施計画検討
本堂建設事業始め奉告法要、住職・副住職読経、全員焼香、正信偈・お文・委員長挨拶、建設委員・世話方・同行、町内来賓、日曜学校生・婦人会等（50名）
同朋会館改修事業開始奉告法要、建設委員参列、委員長・石川技術顧問挨拶
町内募財業務進捗状況報告・町外募財業務実施計画検討、本堂感謝法要・動座式実施計画検討
町内募財業務まとめ・町外募財実施計画確認、「建設委員会だより」第4号発行、本堂感謝法要・動座式案内配布
解体業者「有立希」と契約報告、本堂感謝法要・動座式実

							29														
4		3		2		1		12		11		10									
5	4	16	14	4	1	21	13	6	25	18	28	8	7	16	11	14	10	6	2423		
資材検査	基礎工事	地盤工事	第23回委員会	近隣等挨拶	資料検査	会場借用依頼	第21回委員会	本堂起工式準備	起工式準備	事務局	広報委員会	本堂解体	本堂解体	第19回委員会	第20回委員会	本堂解体	感謝法要準備	本堂感謝法要	施計画・役割分担等検討		
第2回建設資材（木材）検査、魚津社寺工務店木材置場（建設委員会）	修の跡	ご本尊鑑定結果（平安から鎌倉期の特徴、一部江戸期の補修の跡）	本堂建設地、地盤改良工事（柱状改良）終了（柱181本）	基礎工事開始	本堂建設工事着手のご案内	配布、挨拶（近隣家庭・小学校・保育園・町内会）	建設計材（木材）検査、魚津社寺工務店木材置場（建設委員会）	志納金領収書等配布（12月末日完納者）、「建設委員会により」第6号発行	同朋会館で（住職・副住職説経、全員焼香）、建設現地で（全員でお淨め、鍵入れ等地鎮行事）、建設委員・顧問・お寺各会役員等約100名参列、本日、本堂建設工事業者正式契約（株魚津社寺工務店）	本堂解体・整地等工事終了（事故等皆無）	建設工事進捗状況（基礎強化・屋根構造・付帯工事等）検討、志納金領収書等配布（12月末日完納者）、「建設委員会により」第6号発行	杉浦由美子氏）	起工式準備（同朋会館・建設現地、お淨の通路等）	志納者芳名板（拵え）	本堂建設計画（設計図等進捗状況）・本堂建設正式契約準備、志納者芳名板計画（早川建設、鐘楼南西面に）（揮毫杉浦由美子氏）	本堂建設計画（設計図等進捗状況）・本堂建設正式契約準備（台風18号のため2日遅れ）	本堂建設計画（本堂の位置・向き・基礎の高さ・防火設備・木玄関等）、9月末募財状況・町外募財状況報告市外檀信徒向け「懇意お願い」発送	本堂建設計画（本堂の位置・向き・基礎の高さ・防火設備・木玄関等）、9月末募財状況・町外募財状況報告市外檀信徒向け「懇意お願い」発送	本堂建設計画（設計図等進捗状況）・本堂建設正式契約準備、志納者芳名板計画（早川建設、鐘楼南西面に）（揮毫杉浦由美子氏）	本堂建設計画（本堂の位置・向き・基礎の高さ・防火設備・木玄関等）、9月末募財状況・町外募財状況報告市外檀信徒向け「懇意お願い」発送	本堂建設計画（本堂の位置・向き・基礎の高さ・防火設備・木玄関等）、9月末募財状況・町外募財状況報告市外檀信徒向け「懇意お願い」発送

							30												
2		1		12		11	10		9		8		7	6		5			
2	24	19	15	6	23	20	18	12	21	16	18	13	18	10	27	25	19	29	25
上棟式準備	第32回委員会	本堂工事	第29回委員会	第28回委員会	資料検査	芳名板掲示	工事現場検査	第27回委員会	志納者芳名板	入仏法要	第26回委員会	第24回委員会							

							30												
2		1		12		11	10		9		8		7	6		5			
2	24	19	15	6	23	20	18	12	21	16	18	13	18	10	27	25	19	29	25
上棟式準備	第32回委員会	本堂工事	本堂工事	本堂工事	本堂工事	本堂工事	本堂工事	本堂工事	本堂工事	第29回委員会	第28回委員会	資料検査	芳名板掲示	工事現場検査	第27回委員会	志納者芳名板	入仏法要	第26回委員会	第24回委員会
合掌トラス据付開始	「建設委員会により」第7号発行	建設工事、進捗状況（～この数日例年には寒さ、雪・雨に耐えて現場作業）、上棟式計画・稚児行列計画検討	本日より上棟式準備開始	合掌トラス据付開始	「建設委員会により」第7号発行	建設工事、進捗状況（～この数日例年には寒さ、雪・雨に耐えて現場作業）、上棟式計画・稚児行列計画検討													

施計画・役割分担等検討
本堂感謝法要・御本尊動座式準備

本尊動座の式典法要、建設委員・世話方等本龍寺各会役員・町内来賓・檀信徒、150名、住職・副住職説経、全員（

感謝法要準備
本堂感謝法要・御本尊動座式準備

本堂感謝法要準備
本尊動座の式典法要、建設委員・世話方等本龍寺各会役員・町内来賓・檀信徒、150名、住職・副住職説経、全員（

第26回委員会
志納者芳名板

建設工事進捗状況・基礎工事進捗状況報告、確認、志納者芳名板作成手順確認
本堂建設工事進捗状況（基礎工事・木工事）報告・協議

芳名板掲示用木枠建設（早川建設）

基礎工事現状現場検査（説明石川技術顧問）
本堂建設工事進捗状況（基礎工事・基礎コンクリート打設・木工事）報告

志納者芳名板最終点検
町内・町外全芳名板掲示（815）、委員長以下建設委員会員で掲示作業

第3回建設資材（木材）検査、魚津工務店木材加工工場（建設委員）
本堂建設工事進捗状況（基礎工事・木工事・他）報告・協議
所謂「落慶法要」の正式名称と内容確認、「本堂落慶奉告法要」・「蓮如上人五〇〇回御遠忌法要」（平成31年3月30日）・「宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌法要」・「稚児参道列」（平成31年3月31日）
本堂建設工事進捗状況（基礎工事・建設現場仮囲い・他）報告・協議
建設工事、進捗状況・今後の日程、上棟式実施予定（平成30年2月6日）・棟札内容・渡廊下を一本に
本堂土台敷設開始
本堂工事足場組開始
25tフローターケーブン搬入・本堂建方工事開始
午前10時、建設委員参列（説経・焼香）
建設工事、進捗状況・今後の日程・上棟式実施計画検討
本堂柱建完了（85本）

合掌トラス据付開始
「建設委員会により」第7号発行

建設工事、進捗状況（～この数日例年には寒さ、雪・雨に耐えて現場作業）、上棟式計画・稚児行列計画検討

建設工事、進捗状況（～この数日例年には寒さ、雪・雨に耐えて現場作業）、上棟式計画・稚児行列計画検討

（建設委員）
建設工事進捗状況・基礎工事進捗状況報告・確認、志納者芳名板作成手順確認
本堂建設工事進捗状況（基礎工事・木工事）報告・協議

芳名板掲示用木枠建設（早川建設）

基礎工事現状現場検査（説明石川技術顧問）
本堂建設工事進捗状況（基礎工事・基礎コンクリート打設・木工事）報告

志納者芳名板最終点検
町内・町外全芳名板掲示（815）、委員長以下建設委員会員で掲示作業

上棟式	午前10時	上棟式実施（好天）参列約200名	建設工事進捗状況・3月5日より向拝組立・桔木取付、 「建設委員会だより」第8号発行	第33回委員会
屋根工事	第34回委員会	建築状況点検	建設工事・進捗状況・屋根仕舞いが済むと耐力壁・天井 本堂屋根工事（瓦葺）開始	第35回委員会
外構工事	第36回委員会	稚児行列	建設工事・進捗状況・屋根仕舞いが済むと耐力壁・天井 本堂屋根工事（瓦葺）開始	第37回委員会
足場工事	第38回委員会	屋根工事	建設工事・進捗状況（屋根・天井・防火外壁・他）報告・確認、玄関棟建設計画、本堂用備品等充実計画検討 本堂建設工事進捗状況（屋根・天井・漆喰クロス・玄関棟工事）、「新本堂用物品ご寄贈のお願い」配布、「建設委員会だより」第9号発行、稚児行列募集チラシ配布計画、受付業務計画検討	第39回委員会
稚児行列	第40回委員会	稚児行列	建設工事進捗状況（屋根・天井・漆喰クロス・玄関棟工事）・「新本堂用物品ご寄贈のお願い」配布、「建設委員会だより」第9号発行、稚児行列募集チラシ配布計画、受付業務計画検討	稚児行列
現場見学会	第41回委員会	屋根瓦葺き工事完了	本堂建設工事進捗状況報告・確認（屋根・余間天井・壁クロス・華部屋天井）、「お稚児さん大募集」町内全戸配布、「お稚児さん大募集」隣接町内会回覧依頼、「稚児行列開催要項」内容検討、稚児受付業務（10月・11月・土曜・日曜午前丈山小学校現地確認（体育館・運動場・正門付近・等）奥座敷前庭園工事開始	外構工事
第42回委員会	本堂建設工事進捗状況報告（足場撤去、軒桶設置）、玄関棟基礎工事開始、本堂引渡し・竣工式12月1日（土）午前9時30分に、御本尊還座式12月5日（水）午前10時に	本堂建設工事進捗状況報告（足場撤去、軒桶設置）、玄関棟基礎工事開始、本堂引渡し・竣工式12月1日（土）午前9時30分に、御本尊還座式12月5日（水）午前10時に	本堂建設工事進捗状況（屋根・天井・漆喰クロス・玄関棟工事）・「新本堂用物品ご寄贈のお願い」配布、「建設委員会だより」第9号発行、稚児行列募集チラシ配布計画、受付業務計画検討	外構工事

稚児行列	第43回委員会	仏具等納入	本堂、仏具等納入整備開始（若林佛具製作所）
還座式	還座式準備	稚児受付業務	当初計画による稚児受付業務終了（事後も個別申込み受付）
玄関棟工事	玄関棟立柱開始	本堂竣工式	本堂引渡し・本堂竣工式（建設委員中心に）
玄関棟竣工式	還座式準備・還座式リハーサル	本堂にグランドピアノ納入（平田聖子氏寄贈）	本堂にグランドピアノ納入（平田聖子氏寄贈）
玄関棟完成	玄関棟立柱開始	本日より仏華・御華束等、還座式（報恩講）準備開始	本日より仏華・御華束等、還座式（報恩講）準備開始
竣工式準備	玄関棟立柱開始	還座式準備・還座式リハーサル	還座式準備・還座式リハーサル
推会員会会長	玄関棟立柱開始	仏具等納入	仏具等納入
世話方・同行・同	玄関棟立柱開始	稚児受付業務	稚児受付業務
奥座敷前庭園工事完了	玄関棟立柱開始	本堂竣工式	本堂竣工式
渡り廊下を含む玄関（玄関棟）工事完了	玄関棟立柱開始	還座式準備	還座式準備
「春季彼岸会」準備と合せて玄関棟竣工式準備	玄関棟立柱開始	玄関棟竣工式	玄関棟竣工式
建設委員・顧問・魚津工務店代表・他、本玄関前で、読	玄関棟立柱開始	玄関棟竣工式	玄関棟竣工式

企画委員会	経・全員焼香（午後より「春季彼岸会」法要）
第2回御遠忌実行委員会（建設委員・世話方・同行・同推会名会長・稚児行列ボランティア）	魚津工務店と合同企画委員会最終回、本堂建設・玄関棟建設工事等、今般建設事業ついて
第47回委員会	御遠忌式支配・岡崎市本宗寺住職堀田様全体指導、落慶法要・御遠忌法要の内容確認・当日日程概要確認、稚児行列の意味・計画内容確認、役割概要・着付け担当者、業者説明
完工検査	建設事業進捗状況・今後の予定、稚児行列関係、申し込み数（約1000名）、落慶法要・御遠忌法要実施計画最終点検、稚児行列時本堂前桟敷・テント設営、（「株のいり」に）
お勤め練習	本日、魚津工務店建設現場事務所撤去
第3回御遠忌実行委員会（中学・高校生ボランティアを含む関係者全員）	市役所による完工検査（魚津工務店対応）
町内会挨拶	法要時のお勤め練習①（本日より特別資料により3回）
法要等準備	御遠忌式支配・岡崎市本宗寺住職堀田様全体指導、落慶法要・御遠忌法要・稚児行列実施計画最終確認、行列各班担当・学生等担当確認、接待等最終確認、服装確認
リハーサル	市役所による完工検査（魚津工務店対応）
落慶・御遠忌法要	町内評議員会に本堂建設落慶お礼挨拶（委員長・住職）
第1回	稚児記念菓子袋詰め・内仏荘厳用仏華・御華束・境内整備等準備、丈山小学校運動場・体育館、各駐車場等稚児行列準備
落慶・御遠忌法要	町内評議員会に本堂建設落慶お礼挨拶（委員長・住職）
リハーサル	稚児記念菓子袋詰め・内仏荘厳用仏華・御華束・境内整備等準備、丈山小学校運動場・体育館、各駐車場等稚児行列準備
落慶・御遠忌法要	本堂天水鉢・本堂建設記念碑完成
落慶・御遠忌法要	周辺整備事業進捗状況報告・確認、御遠忌ビデオ視聴
落慶・御遠忌法要	避雷針（帯）設置工事完了
落慶・御遠忌法要	建設工事報告と今後の展望、周辺整備事業（避雷帯・天水鉢・正面階段手すり）、本堂建設記念碑設置計画検討、平成30年度会計決算報告
落慶・御遠忌法要	周辺整備事業進捗状況報告・確認、御遠忌ビデオ視聴
落慶・御遠忌法要	本堂天水鉢・本堂建設記念碑完成
落慶・御遠忌法要	周辺整備事業報告、本堂建設記念誌作成・編集計画検討（編集基本・完成予定・発行部数・単価・業者選定は複数社の見積り）
落慶・御遠忌法要	本堂建設記念誌作成計画・業者選定、印刷製本業者は「安城印刷㈱」に決定、発行部数1500部、発行予定は本年12月末記念誌編集作業進捗状況報告、志納者記念品配付計画検討本堂等整備・維持管理計画検討、記念誌編集作業進捗状況報告・志納者記念品配付計画（詳細案）検討
午前「本堂建設落慶奉告法要」	本堂周辺整備・将来の維持管理計画確認、記念誌発行予定12月20日・志納者記念品配付計画（具体案）検討・確認
午後「蓮如上人五〇〇回御遠忌法要」	本堂建設記念誌発行
「慶讃行事」しらべ音頭	参勤Ⅱ本證寺・林高寺・閑窓寺・淨顯寺・宗徳寺・徳明寺・正福寺・本宗寺（式支配）・三河別院列座6名・西三河雅楽研究会7名
午後「宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌法要」	参勤Ⅱ本證寺・林高寺・閑窓寺・淨顯寺・宗徳寺・徳明寺・正福寺・本宗寺（式支配）・三河別院列座6名・西三河雅楽研究会7名
午後「稚児行列（庭儀参道列）」	参勤Ⅱ本證寺・林高寺・閑窓寺・淨顯寺・宗徳寺・徳明寺・正福寺・本宗寺（式支配）・三河別院列座6名・西三河雅楽研究会7名
午後「宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌法要」	参勤Ⅱ本證寺・林高寺・閑窓寺・淨顯寺・宗徳寺・徳明寺・正福寺・本宗寺（式支配）・三河別院列座6名・西三河雅楽研究会7名
午後「満座御礼の儀」本山鍵役信明院殿御挨拶、岡崎教務	参勤Ⅱ本證寺・林高寺・閑窓寺・淨顯寺・宗徳寺・徳明寺・正福寺・本宗寺（式支配）・三河別院列座6名・西三河雅楽研究会7名

令和							
12	11	10	9	7	6	5	4
20	18	12	16	11	24	20	19
第54回委員会	第55回委員会	第55回委員会	第55回委員会	第49回委員会	第48回委員会	周辺工事	出仕ご法中（敬称略）

参勤Ⅱ信明院殿（本山鍵役）・堂衆・岡崎教務所長・随行・信照寺・念空寺・宝林寺・城泉寺・明水寺・隨厳寺・龍讚寺・恩任寺・秋篠寺・專修坊・寿覺寺・正林寺・本宗寺（式支配）・三河別院列座6名・西三河雅楽研究会7名	所長御挨拶、感謝状贈呈（3社）、建設委員長お礼挨拶、住職謝辞

本龍寺本堂と本玄関建設の施工を担当して



株式会社 魚津社寺工務店
代表取締役 魚津忠弘

このたび本龍寺様におかれましては、本堂落慶奉告法要・宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌法要・蓮如上人五〇〇回御遠忌法要を厳修され、誠におめでとうございました。

弊社が担当した本堂・本玄関の工事も無事完了することができ、これもひとえに住職、沓名昭二委員長をはじめとする建設委員の皆様方、門信徒の皆々様のご懇念の賜物と心より感謝申し上げます。

本龍寺様では、数々の罹災のたびにお寺様、門徒の皆様方が力を合わせ、再建を果たしてこられました。今回の新本堂建立では地盤に柱状改良を施し、小屋組はトラス構造とし、さらに耐震性能の高い格子壁を配置するなどの地震対策をいたしました。意匠的には室町時代の落ち着いた雰囲気を基調とし、屋根も内部の面積に比して棟が高くなりすぎず、美しいラインが描かれるように意識しました。同様に本玄関正面の唐破風も穏やかな曲線を目指しました。また、本堂・本玄関とも前本堂の部材の一部を転用することによって、かつての本堂の歴史の一端を伝えることもできました。

さらに石川博技術顧問の献身的なご尽力とご指導により、伝統の中にも映えるデザインや現代的な設備の整った本堂を造営することが可能となりました。この場を借りて御礼を申し上げる次第です。

最後に、本龍寺様で最も印象深かつたことは参列させて頂いた法要が全て満堂だったことです。住職を始めとするお寺様の絶え間ない活動や情報の発信によって、門徒の皆様にとつての聞法の道場が相続されていることを実感いたしました。今回、その聞法道場たる本堂建設の機会を賜りましたことに厚く感謝申し上げます。

建設委員会・写真



全体写真



役員



造営部会



財務部会



法要部会

本龍寺本堂建設委員会

役職	委員長	副委員長	会計	監査	技術顧問	造営部長	財務部長	法要部長
組・町	氏	名						
3番組	7番組	6番組	4番組	7番組	2番組	3番組	5番組	8番組
沓名昭二	都筑省三	早川道久	早川恒男	藤谷正良	兵希良	神親則	本宣親	石谷達朗
名	名	名	名	名	名	名	名	名
氏	氏	氏	氏	氏	氏	氏	氏	氏

法要部						財務部						造営部						役職		
6番組	9番組	8番組	7番組	4番組	1番組	7番組	12番組	9番組	6番組	3番組	2番組	1番組	3番組	12番組	7番組	5番組	4番組	1番組	組・町	
都築久米一	沓名厚治	三浦健宏	都築宏安	沓名雅彦	沓名昭彦	杉浦正雄	都築口次	山口勇	高野雄	兵藤六一郎	神谷博	沓名正夫	猪名勝秋	野直民	早川富夫	川洋	早川芳幸	早川洋	沓名義和	氏名

役職	顧問	嘱託	住職	副住職
組・町	朝日町	朝日町	1番組	6番組
氏名	神谷明文	神谷明文	神谷航一	樋口大慈

平成27年2月の本堂再建発議から5年。見事に出来上がった御堂を前にして、多くの方々の夢と努力の結晶に感動を禁じ得ません。

組織を作り、本堂基本計画策定と並行しての資財集めの計画は慣れない事で試行錯誤の連続でした。そして平成28年5月、建設委員最大の仕事、募財依頼に出向きました。一方、その間に業者を決め、図面を基に、月に数回の役員会等を持って、強さ・使いやすさを基本に方向性を定めていきました。

同年7月、本堂建設事業事始め奉告法要として旧本堂70年に感謝する式典から事業が表面化しました。起工式や上棟式といった節目の行事は檀信徒全てに声をかけ「皆が参加し皆で作る」を基本としてきました。技術的には石川技術顧問の豊かな経験に裏打ちされた指導と魚津社寺工務店の総合力によって、結実していきました。その経過を踏まえた建設記念誌作りに際し、本事業に心を寄せて頂いた方全てに応える事が出来るか心細さは有りましたが、写真を多くすることでその責を果たしたいと考えきました。担当者以外に写真を提供して頂いた石川様、魚津工務店様には、心よりお礼申し上げます。末尾になりましたが、この小冊子を、発起人会の当初より役員として本事業を牽引して下さった早川道久様、兵藤希明様に捧げます。

水仙の 凜とした白に 想いを寄せて

早川恒男



本龍寺本堂建設事業記念誌

編集委員

沓名雅昭

猪野直民

神谷立尚

川口洋一

都築久米

都築正次

早川恒男

樋口祐慈

発行日

令和元年12月20日

発行者

本龍寺本堂建設委員会

印刷所

安城印刷株式会社



真宗大谷派 本龍寺
本堂建設委員会

〒444-1221 愛知県安城市和泉町中本郷41
TEL.0566-92-0505 FAX.0566-92-5212
HP〈ホームページ〉 <http://www.honryuji.net>
E-mail honryuji@poplar.ocn.ne.jp

